

# デーヴォ ガイド



2026.3.2-8

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## 2日 月曜

### マタイ

19:13 そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちがみもとに連れて来られた。すると弟子たちは、連れて来た人々を叱った。

19:14 しかし、イエスは言われた。「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです。」

19:15 そして手を子どもたちの上に置いてから、そこを去って行かれた。

19:16 すると見よ、一人の人がイエスに近づいて来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」

19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。いのちに入りたいと思うなら戒めを守りなさい。」

19:18 彼は「どの戒めですか」と言った。そこでイエスは答えられた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。」

19:19 父と母を敬え。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」

19:20 この青年はイエスに言った。「私はそれらすべてを守ってきました。何がまだ欠けているのでしょうか。」

19:21 イエスは彼に言われた。「完全になりたいのなら、帰って、あなたの財産を売り払って貧しい人々に与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」

19:22 青年はこのことを聞くと、悲しみな



が立ち去った。多くの財産を持っていたからである。

天の御国は「このような（子どもたちのような）者のもの」であるとイエス様が言われました。私たちは天の父なしでは生きていけませんし、この方に全面的に頼っています。そしてそれを隠すことなく素直に認めている者です。まさに神様の前では「子ども」のような者で良いのです。

であるなら、年々的には大人であっても、謙遜で素直に生きたいと思います。また実際に子どもを見て、彼らを下に見ることなく、むしろ尊重するようになるのです。

この「一人の人」は「私はそれらを守ってきました。」というアピールがしたかったのでしょうか。クリスチャンでも時に、そのような思いが見え隠れすることがあるので気を付けたいものです。

大切なことは自分ではできていますとか、信仰がありますというアピールではなく、何をしたら良いかを主に尋ねて従うことです。分かち合いもそのようでありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 3日 火曜

### マタイ



19:23 そこで、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに言います。金持ちが天の御国に入るのは難しいことです。

19:24 もう一度あなたがたに言います。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいです。」

19:25 弟子たちはこれを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」

19:26 イエスは彼らをじっと見つめて言われた。「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます。」

19:27 そのとき、ペテロはイエスに言った。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。それで、私たちは何をいただけるのでしょうか。」

19:28 そこでイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界で、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めます。

19:29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子ども、畑を捨てた者はみな、その百倍を受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。

19:30 しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になります。

金持ちは神に祝福されているという考えがありましたが、それでも天の御国に入れないのなら、いったい誰が入れるのだろうかという疑問であったと思われます。イエス様は金持ちには難しく、貧しい人には簡単だと言っているのではなく、たとえこの世で救いに近いと思われる人であっても、天の

御国に入ることはできないということなのです。

私たちが人に救いを伝えるときに、この人は救われ易いとか難しいとか、勝手に判断しないようにしましょう。そしてただ主の全能と憐みに頼りましょう。

ペテロは正直な人で、思ったままを主に質問したようです。彼はまだこの世のレベルでの報いを期待していたようですが、イエス様の答えは違うレベルのものでした。「人の子がその栄光の座に着くとき」とは終末のできごとであり、その報いはこの世ではあり得ないような絶大なものです。

もしもこの世で受け取るものが全てであるなら、それは全く限定的です。またこの世では解決のつかないこと、受け取れないこと、実現不可能なことばかりでしょう。

私たちは後の世の計り知れない希望をいただいています。そしてその希望のゆえに今の世を感謝と喜びで生きることができます。さらには後の世の永遠の希望の前味を味わうことができますから、それだけでも祝福の生涯を送ることができるのです。

もしもこの世での祝福の基準を人と比べることで計ろうとするなら、それは後先が逆になりますから注意が必要です。ただ神様への思いで生きるなら、知らずに自分が先の者になっているかもしれません。ただし成熟したクリスチャンにとっては、自分の順番などどうでも良いことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 4日 水曜

### マタイ

20:1 天の御国は、自分のぶどう園で働く者を雇うために朝早く出かけた、家の主人のようなものです。

20:2 彼は労働者たちと一日一デナリの約束をすると、彼らをぶどう園に送った。

20:3 彼はまた、九時ごろ出て行き、別の人たちが市場で何もしないで立っているのを見た。

20:4 そこで、その人たちに言った。『あなたがたもぶどう園に行きなさい。相当の賃金を払うから。』

20:5 彼らは出かけて行った。主人はまた十二時ごろと三時ごろにも出て行って同じようにした。

20:6 また、五時ごろ出て行き、別の人たちが立っているのを見つけた。そこで、彼らに言った。『なぜ一日中何もしないでここに立っているのですか。』

20:7 彼らは言った。『だれも雇ってくれないからです。』主人は言った。『あなたがたもぶどう園に行きなさい。』

20:8 夕方になったので、ぶどう園の主人は監督に言った。『労働者たちを呼んで、最後に来た者たちから始めて、最初に来た者たちにまで賃金を払ってやりなさい。』

20:9 そこで、五時ごろに雇われた者たちが来て、それぞれ一デナリずつ受け取った。

20:10 最初の者たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思ったが、彼らが受け取ったのも一デナリずつであった。

20:11 彼らはそれを受け取ると、主人に不満をもちました。

20:12 『最後に来たこの者たちが働いたのは、一時間だけです。それなのにあなたは、一日



の労苦と焼けるような暑さを辛抱した私たちと、同じように扱いました。』

20:13 しかし、主人はその一人に答えた。『友よ、私はあなたに不当なことはしていません。あなたは私と、一デナリで同意したではありませんか。』

20:14 あなたの分を取って帰りなさい。私はこの最後の人にも、あなたと同じだけ与えたいのです。

20:15 自分のもので自分のしたいことをしてはいけませんか。それとも、私が気前がいいので、あなたはねたんでいるのですか。』

20:16 このように、後の者が先になり、先の者が後になります。』

労働者たちは仕事がなく希望がない状態でした。ですから早くから仕事にありつけた人は、夕方から熱さの中で仕事をまっていた人に比べると、幸いだったのです。

またこれは神の国、すなわち神様の恵みの世界の話です。神様からいただくのは報酬ではなく、恵みです。もしも仕事の対価としてもらおうとするなら、始めからこのような仕事はなかったのですから、誰も何も得ることはできません。

こららと同じように、神様に呼ばれることはただ恵みです。そして救われて神様のために生きることは、救われないまま不安を持って生きるよりも幸いなのです。

もしも自分の救いや、クリスチャンとして生きて来た年月に不満を持つなら、後の者のようになってしまいます。もちろんそれで救いが損なわれることはありませんが、どうせ救われているなら、感謝と喜びで生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 5日 木曜

### マタイ

20:17 さて、イエスはエルサレムに上る途中、十二弟子だけを呼んで、道々彼らに話された。

20:18 「ご覧なさい。わたしたちはエルサレムの上って行きます。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡されます。彼らは人の子を死刑に定め、

20:19 異邦人に引き渡します。嘲り、むちで打ち、十字架につけるためです。しかし、人の子は三日目によみがえります。」

20:20 そのとき、ゼベダイの息子たちの母が、息子たちと一緒にイエスのところに来てひれ伏し、何かを願おうとした。

20:21 イエスが彼女に「何を願うのですか」と言われると、彼女は言った。「私のこの二人の息子があなたの御国で、一人はあなたの右に、一人は左に座れるように、おことばを下さい。」

20:22 イエスは答えられた。「あなたがたは自分が何を求めているのかが分かっていません。わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。」彼らは「できます」と言った。

20:23 イエスは言われた。「あなたがたはわたしの杯を飲むことになります。しかし、わたしの右と左に座ることは、わたしが許すことではありません。わたしの父によって備えられた人たちに与えられるのです。」

20:24 ほかの十人はこれを聞いて、この二人の兄弟に腹を立てた。

20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているとおおり、異邦人の支配者たちは人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふ



るっています。

20:26 あなたがたの間では、そうであってもはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。

20:27 あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。

20:28 人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。」

イエス様の十字架、そして神の国における地位についてのエピソードが記されています。イエス様はこれからその身に何が起るかを弟子たちに打ち明けました。イエス様の死が単なる偶発的な悲劇ではなく、神様のご計画にあったことがここでも分かります。

全能の神であり絶対的な力を持ったお方が、そのように弱くなられて人の罪を負ってくださるといふのですから、その主の權威に沿った生き方は、当然人に仕える生き方です。しかし弟子たちやその親までもが、この原理を理解できませんでした。あくまでもこの世の力權威を求めたのです。しかも他の弟子たちも同じ価値観で、この抜け駆けに腹を立てたとのことでした。

クリスチャンである私たちも、そのようなこの世の価値観にえまだ影響されていないかを、考えてみる必要があります。教会で、この世で、人間関係の中でどうでしょうか。

イエス様はあくまでも「仕えなさい」「しもべになりなさい」と説かれます。これこそが神の国において地歩を占める道なのです。主がそのような人を信頼し、落ちてくださるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 6日 金曜

### マタイ



20:29 さて、一行がエリコを出て行くと、大勢の群衆がイエスについて行った。

20:30 すると見よ。道端に座っていた目の見えない二人の人が、イエスが通られると聞いて、「主よ、ダビデの子よ。私たちをあわれんでください」と叫んだ。

20:31 群衆は彼らを黙らせようとたしなめたが、彼らはますます、「主よ、ダビデの子よ。私たちをあわれんでください」と叫んだ。

20:32 イエスは立ち止まり、彼らを呼んで言われた。「わたしに何をしてほしいのですか。」

20:33 彼らは言った。「主よ、目を開けていただきたいのです。」

20:34 イエスは深くあわれんで、彼らの目に触れられた。すると、すぐに彼らは見えるようになり、イエスについて行った。

イエス様の奇跡、すなわち癒しなどのみわざには意味があります。そこから私たちは神様のメッセージを受け取ることができるのです。マタイなど福音書の記者は当然そのような意図を持って書き記したのです。

ここでは目が見えるようになったということに意味があります。そしてイエス様について行ったのです。私たちは主のみわざを求めて祈りますが、単に願いがかなったと喜んでいるだけなら、恵みの一部知った受け取っていないことになります。それによって霊的な目、信仰の目が開かれて、それまで見えなかったものが見えるようになることが重要なのです。分からなかったことが分かるようになることが重要なのです。

ですから、主に願って祈るときは、それを通して神様の御心を教えていただいて成長させてくださいと、祈り求めましょう。そしてさらに従って行きま

しょう。そうすれば次の恵が待っていることでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 7日 土曜

### マタイ



21:1 さて、一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山のふもとのベテパゲまで来たそのとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。

21:2 「向こうの村へ行きなさい。そうすればすぐに、ろばがつかがれていて、一緒に子ろばがいるのに気がつくでしょう。それをほどこいて、わたしのところに連れて来なさい。

21:3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐに渡してくれます。』

21:4 このことが起こったのは、預言者を通して語られたことが成就するためであった。

21:5 「娘シオンに言え。『見よ、あなたの王があなたのところに来る。柔和な方で、ろばに乗って。荷ろばの子である、子ろばに乗って。』」

21:6 そこで弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、

21:7 ろばと子ろばを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。そこでイエスはその上に座られた。

21:8 すると非常に多くの群衆が、自分たちの上着を道に敷いた。また、木の枝を切って道に敷く者たちもいた。

21:9 群衆は、イエスの前に行く者たちも後に続く者たちも、こう言って叫んだ。「ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。ホサナ、いと高き所に。」

21:10 こうしてイエスがエルサレムに入られると、都中が大騒ぎになり、「この人はだれなのか」と言った。

21:11 群衆は「この人はガリラヤのナザレか

ら出た預言者イエスだ」と言っていた。

イエス様は預言によれば王としてエルサレムという都に入られました。王が都に入るとは、支配者としてですから、最強の軍隊の長として馬や戦車に乗るのが当然の姿です。しかしイエス様はろばに、それも子ろばに乗って来られたのですから驚きの光景です。

それはイエス様が「柔和な」王であることの現れです。ただしそれは単に性格の話ではありません。柔和な方が世界を支配なさるといなのです。それは人々の心を変えなくては不可能なことです。

実際にはその後イエス様は王どころか人としての尊厳までもが奪われて、十字架で殺されました。いったいどのように王となるのでしょうか。それは復活によって地と罪を滅ぼし、やがて絶対的なさばき主として世に来られることによって実現するのです。

そして地上ではすでにイエス様の勝利が決まっている証しとして、「柔和」による勝利を味わうことができます。私たちは権力が人を牛耳るような世の中であって、主の柔和による勝利を体験できるのです。そしてそれこそが信仰の勝利であり、主の証し人としての使命でもあるのです。

群衆は喜んでイエス様をたたえましたが、この神の真理を知らなかったので、後にイエス様に失望して、十字架に付ける側になってしまいました。私たちは柔和にこそ主の権威の表れがあることを信じ続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21:12 それから、イエスは宮に入って、その中で売り買いしている者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。

21:13 そして彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしている。」

21:14 また、宮の中で、目の見えない人たちが足の不自由な人たちがみもとに来たので、イエスは彼らを癒やされた。

21:15 ところが祭司長たちや律法学者たちは、イエスがなさったいろいろな驚くべきことを見て、また宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と叫んでいるのを見て腹を立て、

21:16 イエスに言った。「子どもたちが何と言っているか、聞いていますか。」イエスは言われた。「聞いています。『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました』とあるのを、あなたがたは読んだことがないのですか。」

21:17 イエスは彼らを後に残し、都を出てベタニアに行き、そこに泊まれた。

21:18 さて、朝早く都に帰る途中、イエスは空腹を覚えた。

21:19 道端に一本のいちじくの木が見えたので、そこに行って見ると、葉があるだけで、ほかには何もなかった。それでイエスはその木に「今後いつまでも、おまえの実はならないように」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。

21:20 弟子たちはこれを見て驚き、「どうして、すぐにいちじくの木が枯れたのでしょうか」と言った。

21:21 イエスは答えられた。「まことに、あなたがたに言います。もし、あなたがたが信じて疑わないなら、いちじくの木に起こったことを起こせるだけでなく、この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言えば、そのとおりになります。  
21:22 あなたがたは、信じて祈り求めるものは何でも受けることになります。」

エルサレムは宗教的な中心地でしたから、その腐敗ぶりも顕著でした。「強盗」というのですから、不正な商売が横行していたことでしょう。

何よりも神への敬虔な祈りが、金儲けの道具にされていたのですから、これをイエス様が見ないふりをすることは考えられません。私たちが教会や宣教の働きに自分の利益を持ち込むことのないように気を付けなくてはなりません。

イエス様は単に怒りの感情で行動していたはずはありません。みわざを求め人々には、その信仰に応えてくださいました。また子どもたちの純粋な信仰を守りました。

いちじくのエピソードは解釈が難しいところですが、ある一連の出来事を通してマタイが信仰的な内容を読みとったと思われます。ここにイエス様の落胆と、それでも弟子たちに祈りを教えようとするイエス様の愛を見たのでしょうか。

いちじくは葉と実が一緒に成りますから、葉があれば実が期待できましたが、実際には見掛け倒しでした。いちじくは聖書ではイスラエルの反映を表します。すなわち、神への信仰が見掛け倒しであることで、イエス様が落胆するのだと考えられます。「実がならないように」とは神様が放置せざるを得ないイスラエルの霊的状态を思わせませす。

弟子たちには理解できない一連の出来事でしたから、彼らの興味はなぜそんなに早く枯れたの

かに注がれました。イエス様はこれも教育の機会ととらえ、彼らに祈りを教えたのではないのでしょうか。

見掛け倒しの信仰ではなく、実を結ぶ者となりましょう。そのためにも「信じて祈り」「何でも受ける」者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願い）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

